



Title	これほど違う最新の間人ドック 『総合・がん健診』
Author(s)	藤田, 昌英
Citation	癌と人. 1996, 23, p. 8-11
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/23944
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

これほど違う最新の人間ドック

『総合・がん健診』

藤 田 昌 英*

癌は死亡原因の第一位

わが国の3大成人病のなかで、癌は1981年に脳血管疾患を抜き死因の第一位となりましたが、その後も勢いは増すばかりで93年には23.6万人と、実に4人に1人が癌で亡くなられています。中曽根内閣が打ち上げ最近終了した政府の『対ガン10か年総合戦略』の願いもむなしく、この25年間で癌死亡数は2倍以上増加したのです。

増加癌と減少癌

しかし、癌の種類別に見ると決して一様ではなく、長く地道に癌検診が行われ、早期発見、早期治療が普及して来た胃癌と子宮癌の死亡率は、その原因構造の変化と相まって明らかに減少して来ています。一方、増加の著しい癌としては肺癌、大腸癌、乳癌、肝臓癌、膵臓癌、前立腺癌などがあげられます。困ったことに大阪の癌死亡率は全国でも抜きん出ています。

肺癌は特に男性の場合、平成5年に、それまで一位の胃癌をついに抜き王座につきました。ご存じのように肺癌の原因の7割は喫煙に由来していると言われ国民を挙げた防煙対策が急がれます。

激増する大腸癌とその対策

大腸癌も肺癌と並んで増加ぶりが目だっており、このままだと間もなく胃癌を追いぬく勢いです。戦後の食生活の欧米化にともなう肉、脂肪摂取の増加と食物繊維摂取の減少が原因で

あり、抑えようが無さそうです。しかし幸い無症状の人から容易に大腸癌を早期に発見し治療する有効な二次予防法（集団検診）が研究開発され、平成4年度から厚生省もこの検診を市町村が行う老人保健事業に採用したため、急速に普及してきました。

私ども（旧）阪大微研病院外科でも早くから（財）大阪癌研究会と協同しこの研究開発に携わり集団検診法の確立に指導的役割を果たしてきましたが、平成5年夏に病院が閉鎖されたのに伴い癌研究会理事会は長年続けてきた検診事業の中止を決定されました。しかし私は井上病院に移った同僚らと共に長年蓄積してきた問診票、記録も大切に移管し、院長の特段の計らいもあり構想も新たなシステム、「大腸がん検診治療研究所」を組織し事業を完全に引き継ぎました。

平成3年から老健法の標準法を先どりした『問診を参考にとどめた免疫便潜血検査2日法』を行い、3年間の受検者約4万人から100人以上の大腸癌を発見しました。しかも、その過半数は早期癌であり、この私どもの検診が優秀であることを裏づけられました。しかし、これは便潜血検査、精密検査とも正確に行った結果得られたものです。ところで世間に検診が広まるにつれ、実施方法を正確に理解せず安易に行うケースが増えたのか、癌発見率の低い検診が目立ち始め心配されています。

人間ドックの普及とその盲点

健康管理に対する個人や団体の意識が高まる

* 大阪癌研究会監事、医療法人蒼龍会井上病院副院長

につれ、一般健診に飽きたらず、簡単に半日で受けられる人間ドックが大いにもてはやされて来ています。皆さんは人間ドックにどんな期待をもって受診されているのでしょうか。きっと「自分が気づいていない色々な病気が全て早期に発見され、早期治療に結び付けられるもの」と信じて受けておられる方が多いのではないのでしょうか。ところが、皆さんのまわりで、「毎年ドックを受けており癌については心配なし、と言われていたのに、間もなく頑固な咳の症状がでて病院に行き手遅れの肺癌と宣告され半年後に亡くなられた。」こんな話を耳にされたことはありませんか。

自動化健診とも呼ばれる、これまでの半日で流れ作業的に行われる標準的人間ドックでは、胃癌、肝臓病や糖尿病など以前から日本人に多かった成人病については比較的よくチェックできていますが、最近激増してきた病気に対する検査法は決して十分だとは申せません。これを打破しなければ、次第に人間ドックに対する信頼は薄れていくに相違ありません。それどころか、「癌検診、百害あって一利なし」と文芸春秋などで高らかに言うK医師に反論すらできなくなってしまう。

増加癌に対応する画期的な人間ドックの創出

始めにも書いたように、いま注目の増加著しい癌は何といっても肺癌と大腸癌、それに女性の乳癌です。幸い現代の医療機器や技術の進歩はめざましく、これらの癌に対しても安全で確実な診断技術が適応可能なのです。

私は長年大腸癌の検診法を確立する仕事に携わってきましたが、無症状の大集団を扱う住民検診としては、今の免疫便潜血検査2日法は毎年受けることを前提とし、高い精度で行われる限り適切だと考えています。しかし、人間ドックは違います。いろんな病気の早期発見を強く期待して受診する人間ドックでは、潜血検査のみでは不十分で、簡単な前処置のみではほとんど

苦痛なく安全に行える下部大腸内視鏡検査との併用が望まれます。

この内視鏡検査をすれば大腸癌の7割以上が発生する直腸、S状結腸の癌は小さい早期癌まで確実に診断されます。希に、1泊人間ドックでこの組み合わせ検査が採用され、高い癌発見成績が示されているのを知っています。ところが、こと日帰りの人間ドックでは、私の知る限り内視鏡と併用したものは皆無で、それどころか多くのドックの成績は大腸単独検診の大腸癌発見率より劣っているのが現状であり、お寒い限りです。

肺癌、乳癌それに胃癌についてみても状況は似ています。広く地域住民に行われる集団検診と同じメニューしか含まれない人間ドックに貴方は満足されるでしょうか。しかし、嬉しいことに人間ドックにも流れ作業方式を脱して、きめ細かく最新の診断機器と技術を駆使し、個々人のニーズに沿い、病気の早期発見を目指す新しい波が起こっています。研究者の間でも、これまでの自動化人間ドックに対応する総合健診医学会にあきたらず、ごく最近になり、胸部CT研究会や日本がん検診・診断学会が発足しました。

肺癌早期発見の新兵器、胸部高速ラセンCT

肺癌の検診は古くから普及していた肺結核発見のための胸部間接エックス線写真を利用して行われてきましたが、早期発見には程遠いものでした。現在行われている肺癌の標準検診法は厚生省が昭和62年から保健事業計画に採用したもので、胸部エックス線撮影を40歳以上の人に年1回行い、さらに50歳以上で喫煙指数（1日の喫煙本数×年数）が600以上などの肺癌高危険群の人に3日間の喀痰細胞診も行うものです。この細胞診検査は肺門部の扁平上皮癌の早期発見に有効と分かったためです。しかし、最近増加してきている肺野部の腺癌では、早期になるほど写真上では陰影は淡く早期発見は悲観

的と分かってきました。

ところが、エックス線CTにも高速ラセンCT装置が登場しました。休まず螺旋状に連続撮影をしますので、たった1回15秒の息止めだけで肺全体のCT写真が出来てしまいます。以前から熱心に検診を進めていた「東京から肺がんをなくす会」が最近このCTを会員に用いた成績で、高率に肺癌を見つけましたが、そのうち90%は小さな早期癌であり、大いに注目されました。その中には今まで単純エックス線写真で異常なしとされていた腺癌もありました。平成7年2月には早速同会の人々が集まり、初めて「胸部CT検診研究会」が開かれた際に発表されたもので、私もこの会に参加し大いに啓発されました。エックス線写真では心臓の陰になり見えなところでも、CTでは淡い1cm弱の腺癌まで鮮明に描写されています。さらに、CTは副産物として、心臓に栄養や酸素を送る冠動脈の石灰沈着も鋭敏に見つけだしますので、心筋梗塞などの虚血性疾患の予知にも有効です。

新しい人間ドック、「総合・がん健診」

この耳慣れない「総合・がん健診」とは、私どもが平成7年4月から新しく始めた画期的な人間ドックの呼称です。これまで述べてきた注目の増加癌と、これまで不動の1位で恐れられてきた胃癌に対し、それぞれの時代の先端をいくハイグレードな画像診断を、従来から広く普及している自動化された標準人間ドック（総合健診）に加えたものです。

しかも日帰りで実現しましたので、仕事で忙しいVIPの方々にも大いに歓迎されています。

（図）は私どもの総合・がん健診を受検された方に説明するのに用いている資料です。大腸癌、肺癌は先にご説明した通りですが、胃癌に対しても最新の内視鏡、電子スコープを導入しました。細径のファイバースコープですので、これまでの胃カメラより随分楽に検査がすみ、しかも、少しでも怪しい変化があれば即時に生検し組織診断できますので、胃エックス線検査より一層早期発見に有効です。

こんなに違う，がん検診の内容

総合・がん健診		VS	(標準人間ドック)
	●胸部高速ラセンCT + (胸部エックス線、喀痰細胞診)	肺 が ん	(胸部エックス線、 喀痰細胞診)
	●乳房エックス線 + (視触診)	乳 が ん	(視触診)
	●胃内視鏡 (胃エックス線)	胃 が ん	(胃エックス線)
	●(超音波) + 腫瘍マーカー	肝・胆嚢がん	(超音波)
	●下部大腸内視鏡・直腸指診 + (免疫便潜血2日検査)	大腸がん	(免疫便潜血2日検査)
	●触診・腫瘍マーカー	前立腺がん	触診・腫瘍マーカー

井上病院「総合・がん健診」説明用パンフレット®

乳癌も一般検診で行われている医師による視触診に、マンモグラフィーと呼ばれる特殊な乳房エックス線撮影装置による検査を加えました。乳癌の多い欧米では広く普及し触診では分からない早期乳癌の発見に有効なことが認められています。前立腺癌についても触診に新しい腫瘍マーカーPSAを加え早期発見をめざしています。

このように私どもは最新鋭の検査機器を駆使し、経験豊かな医師が中心となってチームワークを組み、時代を先取りする新しい健診システ

ムを作り上げました。個々人のライフスタイルやリスク、男女に合わせたきめ細かいメニューで、真の癌の2次予防（早期発見）の達成をめざしています。

会社の中核で重要な役割の担い超多忙な方、会社をリタイアされて健診の機会が乏しくなられた高齢の方、また毎年標準的ドックは受けられていても50歳などの節目には、ぜひ一度この充実した日帰り健診を受けられ、貴方の健康管理にお役立ていただきたいと願っています。

ガンの危険信号 八か条

1. 胃ガン……胸やけや胃のもたれなど、胃のぐあいが悪くないか食べ物の好みが変わったりしないか
2. 食道ガン……食べ物や水を飲みこむときに胸につかえる感じがしないか
3. 結腸ガン、直腸ガン……便秘と下痢をくり返していないか便に血液や粘膜が混じったりしないか
4. 肺ガン、喉頭ガン……せきが長引いたり、たんに血が混じったりしていないか
5. 舌ガン、皮膚ガン……治りにくいできもの、潰瘍がからだのどこかにないか
6. 子宮ガン……おりものが出たり、不正性器出血がないか
7. 乳ガン……乳房のなかにしこりが触れることはないか
8. 腎ガン、膀胱ガン、前立腺ガン……尿の出が悪くなったり、尿に血液が混じったりしないか

— 日本対ガン協会制定 —